

## 春 藤 真 三（しゅんどう しんぞう）

明治25年（1892）大分県に生る。大正7年、東京帝大土木工学科卒。青木楠男、石川栄耀と同級。同14年、同大学政治学科卒。当初民間会社に在ったが、大正12年大震災を機に帝都復興院技師となり、土木部道路課に勤務。昭和2年欧米各国へ出張。翌年3月帰朝して復興局長官々房計画課勤務。次いで昭和4年9月、神奈川県土木部道路課長となり、更に昭和7年から13年にかけて富山、栃木、岐阜各県の土木課長を歴任する。栃木県在任中、県庁舎を建てるに万遺漏がなかった。たまたま県知事は松村光磨であったが、昭和13年1月樋木寛之の後任として春藤を内務省計画局に迎えたのは、計画局長の職にあったその松村であった。かくして翌14年には計画局第一技術課長になったが、当時は準戦時態勢の時代で、一般的の都市計画の事業は縮小の一途であり、僅かに樋原と宇治山田の2つの神都計画と全国何ヶ所かのいわゆる新興工業都市の建設事業に力が注がれ、更には防空施設の建設が問題化しつつあった。しかし資源も資材も直接戦力増強の関係事業に向けられ、都市計画にとっては誠に困難な時代であった。宇治山田の神都計画の働き、性質上予算其他特別の扱いを受けてはいたが、この直轄事業の遂行も容易ではなかった。

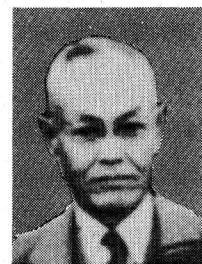
ところで当時の都市計画の地方機構としては、大県に

## 松 井 達 夫

（勵都市計画協会顧問）

は都市計画課があったが、課長はすべて事務官であった。「都市公論」21巻3月号に文徐公なる人物が投稿した「都市計画地方委員会技師論」なるものは当時の空気を示すものであろうか。ある日筆者は春藤課長に随行して神奈川県知事官舎に赴いた。そして春藤課長が半井清知事に懇請するのを伺った。恐らく松村局長も了解されてのことだったろう。かくして昭和14年、地方委員会技師野坂相如が全国はじめて、技師で都市計画課長になった。当時前任者の野々山事務官が転出し、後任が未定であったのである。

昭和16年9月、帝都高速度交通営団が設立され、春藤はその参与となり、終戦の年退職。21年8月から4年間熊本市復興局長として同市の戦災復興に尽力。34年日本都市計画学会々長、36年同学会名誉会員。その間首都圈整備委員会専門委員、神奈川都市計画審議会委員等を歴任。一方また溝口三郎、北村徳太郎と共に全国市長会の専門調査員として多数都市の開発計画の立案に従事。晩年胆石、肺気腫を病み、39年10月29日歿。享年72。



# 春 藤 真 三 (しゅんどう しんぞう)

## 略歴 (春藤真三)

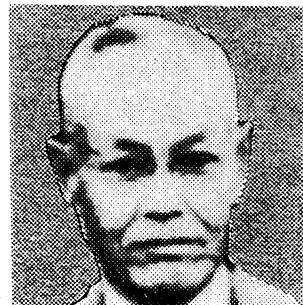
1892 (明治25) 年 大分県に生まれる  
1918 (大正7) 年 東京帝国大学工科大学土木工学科卒  
1923 (大正12) 年 帝都復興院技師  
1925 (大正14) 年 東京帝国大学法學部政治学科卒  
1927 (昭和2) 年 欧米出張  
1928 (昭和3) 年 内務省復興局長官房計画課  
1929 (昭和4) 年 神奈川県土木部道路課長  
1938 (昭和13) 年 内務省都市計画局第一技術課長  
1941 (昭和16) 年 帝都高速度交通営団参与  
1946 (昭和21) 年 熊本市復興局長  
1959 (昭和34) ~1960 (昭和35) 年度日本都市計画学会会長  
1964 (昭和39) 年 逝去

明治25年 (1892) 大分県に生まれる。大正7年、東京帝大土木工学科卒。青木楠男、石川栄耀と同級。同14年、同大学政治学科卒。当初民間会社に在ったが、大正12年大震災を機に帝都復興院技師となり、土木部道路課に勤務。昭和2年欧米各国へ出張。翌年3月帰朝して復興局長官々房計画課勤務。次いで昭和4年9月、神奈川県土木部道路課長となり、更に昭和7年から13年にかけて富山、栃木、岐阜各県の土木課長を歴任する。栃木県在任中、火災で焼失した県庁舎を新築するのに万遺漏がなかった。たまたま県知事は松村光磨であったが、昭和13年1月樋木寛之の後任として春藤を内務省計画局に迎えたのは、計画局長の職にあったその松村であった。かくして翌14年には計画局第一技術課長になったが、当時は準戦時態勢の時代で、一般的の都市計画の事業は縮小の一途であり、僅かに権原と宇治山田の2つの神都計画と全国何ヶ所かのいわゆる新興工業都市の建設事業に力が注がれ、更には防空施設の建設が問題化しつつあった。しかし資源も資材も直接戦力増強の関係事業に向けられ、都市計画にとっては誠に困難な時代であった。宇治山田の神都計画の如き、性質上予算其他特別の扱いを受けてはいたが、この直轄事業の遂行も容易ではなかった。

ところで当時の都市計画の地方機構としては、大県には都市計画課があったが、課長はすべて事

(財)都市計画協会名誉会員

松 井 達 夫



春 藤 真 三

務官であった。「都市公論」21巻3月号に文徐公なる人物が投稿した「都市計画地方委員会技師論」なるものは当時の空気を示すものであろうか。ある日筆者は春藤課長に随行して神奈川県知事官舎に赴いた。そして春藤課長が半井清知事に懇請するのを伺った。恐らく松村局長も了解されてのことだったろう。かくして昭和14年、地方委員会技師野坂相如が全国はじめて、技師で都市計画課長になった。当前任者の野々村事務官が転出し、後任が未定であったのである。

昭和16年9月、帝都高速度交通営団が設立され、春藤はその参与となり、終戦の年退職。21年8月から4年間熊本市復興局長として同市の戦災復興に尽力。34年日本都市計画学会々長、36年同学会名誉会員。その間首都圈整備委員会専門委員、神奈川都市計画審議会委員等を歴任。一方また溝口三郎、北村徳太郎と共に全国市長会の専門調査員として多数都市の開発計画の立案に従事。晩年胆石、肺気腫を病み、39年10月29日歿。享年72。